



2026 年 10 月 10 日発行

社会福祉法人 龍鳳ライフパートナーこぶし
〒203-0004 東久留米市氷川台 2-31-19
TEL:042-470-2385 FAX:042-470-2386
清瀬事業所/ふわっとん
〒204-0013 清瀬市上清戸 1-15-18
TEL&FAX:042-497-9481
<https://www.fukushiryuhoh.or.jp/kobushi/>

日帰り旅行でのお昼ご飯♪
いただきます！



器を磨く

理事長 貝沼 寿夫

「あの人は器が大きいな」と感じることはありません。では、「人の器」とは何でしょうか。組織では、どうしても声の大きい人や、立場の上の人の意見が通りやすくなりがちです。私自身も理事長という立場ですから、できるだけ声が大きくならないよう、なるべく口を噤んでいるつもりです。

声の大きさや立場の強さで人が動く組織では、やがて「違うと思います」「こうしたらどうでしょう」という声が出てくなくなります。一方で、自分と違う意見にも耳を傾け、相手の立場を想像し、自分の考えも見直せる人には、自然と人が集まります。私は、そこに「器」の大きさが表れるのだと感じています。

先日、成人発達理論を基にした『「人の器」の磨き方』という本を読みました。印象に残ったのが、「成長とは、知識やスキルを増やすことだけではない」という考え方です。AIの進歩によって、知識を集め、文章を書き、分析し、答えを出すといった能力は、これからますますAIが優位になっていくでしょう。だからこそ、これからの時代に私たちが磨き続けるべきものは、人間性なのではないでしょうか。

その一つが、『メタ認知』です。簡単に言えば、「自分の考えや感情を、一歩離れて見つめる力」です。「自分は正しい」と思ったときに、「なぜ私はそう考えているのだろう」「別の見方はないか」「相手から見たら、どう見えているだろう」と、自分自身を俯瞰して見つめる。この力があることで、自分の思い込みに気づき、異なる価値観を受け入れ、より広い視野で

物事を見ることができそうです。

そして、これは私たちが大切にしている『生涯発達』にも繋がります。龍鳳では、障害の有無にかかわらず、人は誰でも生涯に渡って発達し、成長すると考えています。利用者の皆さんについても、「今できること」だけを見るのではなく、「これからどんな可能性があるのだろう」と考えることを大切にしています。

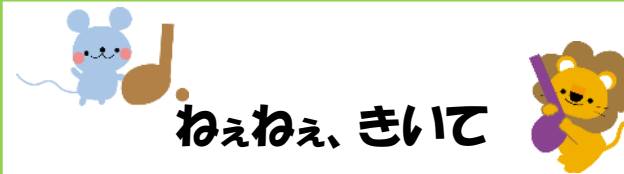
法人理念にある「温もりのある心と未来を見通す広い視野を持つて、利用者一人ひとりの能力や才能を存分に発揮できるよう努めます」という言葉も、まさにその思いを表しています。そして、生涯発達するのは利用者さんだけではなく、支援する私たち自身も、学び、悩み、失敗し、自分の考え方を問い直しながら、生涯に渡って発達していく存在です。

「自分はこういう人間だから」「この人はこういう人だから」と決めつけるのではなく、「もしかしたら、まだ自分には見えていないものがあるのではないか」と問い続ける。その姿勢が、自分の器を少しずつ磨き、広げていくのだと思います。AIがどれだけ進化しても、人の可能性を信じることで、人の心に寄り添うこと、そして自分自身を振り返りながら相手と共により良い答えを探していく。そうした人間らしい営みを、大切にしていきたいと思っています。

利用者の皆さんの生涯発達を支える法人として、私たち自身もまた、生涯発達していく。一人ひとりが自分の「器」を磨き続けることが、より良い支援と地域の皆さまやご家族からの信頼に繋がっていくのだと思います。



👉 氷川台自治会の敬老会クッキー作りのお手伝いを行いました！
清瀬事業所からは3名の利用者さんが大活躍👏
クッキーの袋詰めやシール貼りを行いました！



ねえねえ、きいて

生活支援員 石澤 泉

勤務中、目がしょぼしょぼして開けられなかった時に、「いたい？」と複数の利用者さんが心配して覗き込んでくださいました。敏感に変化を感じ取り気遣うその姿勢、見習わせていただきます！



キラリ☆と光るこの一枚



予定表の日付を更新することが日課！
今日は9月9日すいようびです🍊
(城間 直哉)

支えられながら1歩ずつ

入職して初めて、新規の利用者さんを担当させていただくことになりました。私にとっても、利用者さんにとっても初めてのことばかりで、どのような支援がいいか悩むこともありました。

そんな時、周りの職員が支援方法の相談に乗ってくれたり、支援で使う道具の準備を手伝ってくれたり、ご家族からアドバイスをいただくなど、様々な方が支えてくれました。悩んだりすることも徐々に、新しい発見や喜びへと変わってきています。

まだまだ、上手くいかないこともあります。1人で抱え込まず周りの力を借りながら、1つ1つの経験を大切にしていきたいと思っています。

トライ&エラーを繰り返しながら、利用者さんが安心して生活を続けていけるよう支援を行っています。

生活支援員 花岡 穂香

フォトニュース ～9月の様子～



日帰り旅行

エミテラス所沢へ
行ってきました！



♪余暇・活動♪

違うを楽しむ

朝晩が涼しくなり、過ごしやすい季節になってきました。こぶしの中でも半袖から長袖に衣替えが進んでいます。

東京では、8月から9月にかけて、21日間という記録的な長雨があったりしました。例年とは違う気候で、気軽に外に出られずにもやとした気分でも過ごしました。

こぶしでも今年は例年にも増して、男女の支援で協力する場面が増えています。男女間の協力はいいことなのですが、今までと違うことがあるともやとした気分になってしまうこともあるかもしれません。

さて、もやとした気分になると何が起きると思いますか。皆さんも経験があると思いますが、その事象の悪いところばかりに目がいてしまうのです。

例えば、『雨でお出かけできない』や『雨が降って外で体が動かせない』など、雨のせいではないことに意識がいてしまうのです。男女の協力も一緒です。男性だけなら女性だけなら、男性ならこうなのに、女性ならこうなのに…こうなってしまうたら、せっかくの協力の意味がありません。

少し考え方を考えるだけで見え方が変わってきます。『雨が降っているから読めてない本でも読もう』『雨だから室内でストレッチしよう』なんて、できることを考えれば、それだけで過ごし方のレパートリーが増えます。

男女の協力も同じです。お互いのやり方や考え方を共有することで支援の幅が広がっていくのです。

つまらないことや嫌なことは絶対に出てくると思います。そうしたら、どうしたら楽しくなるか、好きなところはないかと考えてみてください。きっとどんなことにも良いところ、好きなところがあると思います。見つけることで見え方が変わると思います。

この考え方は、支援や育成、友達関係などいたるところで役に立つと思います。相手や事象を変えるのは難しいですが、自分が変わるのは自分の意識しだいです。このような考え方をしながら、今後もあるだろう様々な変化に前向きに対応し、成長していければと思っています。

フロア支援部 部長 高野 竜

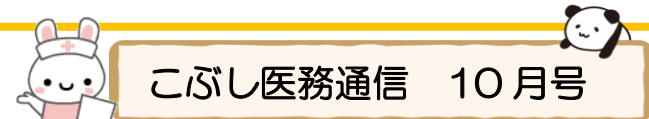


大切にしていること

今年も残り2カ月です。時間が過ぎるのを、とても早く感じます。ピカピカのランドセルを背負って入学した子供は、来年小学3年生になります。自身の子供に躰をする際、“時間を守る大切さ”を徹底して伝えていきます。それは、自分自身を律することにもなりますが、相手を思いやることにも繋がっていると、私は考えているからです。学校に遅刻しないように、目覚ましをかけ、食事や身支度にどれだけの時間が掛かるかを自分で計算するよう促してきました。おかげで現在では、朝起きてから家を出るまで自分一人で完結させることができています。

仕事においても、計画と実行はタイムマネジメントが欠かせません。自身の行動を管理し、支援や事務業務を効率よく行うことで、利用者へ手厚い支援提供が出来たり、他職員の負担軽減が図れます。“時間”は有限です。毎秒毎分を大切にし、“誰か”を思いやりながらこれからも過ごしていきたいです。

生活支援員 吉井 友美



こぶし医療通信 10月号

【インフルエンザ、流行っています!!】

今年はすでに「インフルエンザ流行」のニュースが流れ始めていますね。インフルエンザは、強い感染力を持ち感染者のせきやくしゃみなどでウイルスが飛び散り、それを吸い込む事によって感染します。また、ウイルスが付着した手で口や鼻の粘膜を触る事でも感染します。感染予防として換気、消毒、距離、必要な場面でのマスク着用、予防接種等が有効です。急な発熱、咳やのどの痛みなど、インフルエンザと思われる症状がある場合は、なるべく早めに医療機関を受診するようにしましょう。「感染予防と早めの対応」が大事です。

感染症対策



手洗い うがい 消毒 マスク

医療 新井 朋子